

日本ビオトープ協会 2019

ビオトープ No. 43

特集「里山から学ぶ生態系インフラ Vol.2」



ナナカマドの実を食べるキレンジャク
(北海道鷹栖町)
写真 内海 千樫 氏 提供



特定非営利活動法人

日本ビオトープ協会

巻頭言

生物の多様性と森林環境税

鈴木 元弘 1

特別寄稿-1

森林における生物多様性保全の取組

牧元 幸司 2

特別寄稿-2

多様な主体が連携した自然保護や環境保全活動の推進について
 ~Naturcation(自然育)の旗印のもとに~

藤尾 修 6

シリーズ連載

ビオトープのいきものたち -その29- 森にすむ大型の哺乳類

神垣 健司 10

会員・BA等投稿

矢作川に近自然工法による巨石水制工を設置

山浦 幹人 12

里山におけるビオトープの保全、復元、創出

葉名 康弘 14

協会活動状況

各地区委員会(8地区)活動 計画・報告等
 /本部 お知らせ・ご報告

各地区委員長/協会事務局 16

連載コラム

「ビオトープを知る、五つのヒント」
 その4 健康診断:早期発見早期治療

立川 周二 20

◇表紙・裏表紙写真の説明◇

本号の表紙写真は、裏表紙写真ともに、幌加内町の内海千樫氏がご自宅のビオトープ、他で撮りためてきた生き物写真の中からご提供頂きました。

- ・表紙:ナナカマドの実を食べるキレンジャク:シベリアからやって来る冬鳥です。冬に実のなる木を植えておくのは小鳥を呼び寄せるのに有効なことです。
- ・裏表紙:コハクチョウ:幌加内ビオトープから2km先にある幌加内湖には4月中旬~5月上旬に数千羽のコハクチョウがやってきます。

◇内海千樫氏:北海道 幌加内ビオトープ研究会代表、日本ビオトープ協会会員。1978年より幌加内町在住。2017年6月に写真集「蒼鷺」(共同文化社)が出版されました。動物写真家であり、動植物・昆虫などの写真撮影を通じて、その生態観察は欠かせず長年研究を続けてこられ、ビオトープに地道に取り組んでおられます。

